

利府梨の花、満開。

4月下旬、町内の梨畑が純白のカーペットを広げたように真っ白に。どこかほかなげなこの花は、利府梨の花。梨の花は例年桜の開花から1週間ほど遅れて咲きます。一つひとつの花は、真っ白な花びら5枚で構成されていて、まるで桜の花びらを白く染めたような姿です。今号では、収穫の秋に向けて梨農家の皆さんが行う作業の一部を紹介します。

梨の花言葉は「愛情」や「博愛」

親が子どもに見せるような、優しい思いや愛情を意味します。白く可憐な梨の花にふさわしい花言葉です。



▲手作業で一つひとつ摘み取ります

花を間引く「摘蕾(てきらい)」

立派な梨に育てるために、大事な作業の一つが「摘蕾(てきらい)」です。摘蕾とは、花や咲く前のツボミを摘み取り花の数を調整する作業。一見するともったいなくも見えますが、選別した花に多くの栄養を与えるための大事な作業です。

時間との戦い「花粉交配」

もう一つの大事な作業が「花粉交配」。基本的に梨は、異なる種類同士の花粉で受粉させなければ実らない特徴があります。また、まんべんなく花粉が付かないとキレイな形になりません。なので、人の手で受粉の手助けをしてあげる必要があるのです。しかし、梨の受粉が可能な時期は、満開時の前後1週間程度！まさに、時間との戦いです。



▲ブラシを使って受粉作業をする様子

摘蕾・交配作業中の「地域おこし協力隊の近江さん」にお話を伺いました



梨の剪定・誘引作業を終え、今は摘蕾と花粉交配の準備をしています。摘蕾は、枝の先端の花を摘むことで、新梢が勢いよく伸び、果実に栄養が行き渡ようになります。また、花粉交配は、新興梨の花を摘み、そこから花粉を取り、手作業で受粉作業を行います。どれも手間の掛かる作業ですが、品質の良い利府梨を作るため、労を惜みず仕事をします。実りの秋に、手塩にかけて作った利府梨をご賞味いただければ幸いです。追伸：梨の花、とても綺麗ななので、ぜひ見に来てくださいね！



おうみ たかゆき

地域おこし協力隊 **近江 貴之**
(利府梨王子)



利府梨王子

ohmi0921

利府梨や梨カレー作りなどをブログで発信
「元新宿サラリーマンのトカイナカ暮らし」

利府おもて梨園

検索

